

## 1 - 1 国文学

### 研究・教育活動の概要と特色

国文学専攻分野では、文学を芸術の一種と捉えて、日本文学の様式・特質・展開を明らかにするとともに、その意義を世界文芸との関連において探究することを伝統的学風としてきた。同時に、作品の表現を丁寧に読み解くことを一貫して重んじ、偏りのない知識と読解力の習得を促しながら、学生ひとりひとりの関心を尊重して自己実現の手助けをするという教育方針の下、活発な研究・教育活動を進めてきている。卒業生は、約 1000 人に及び、国内外の学界・教育界・ジャーナリズム・出版界など、多方面で活躍している。現在も多くの大学院生・学部生・研究生が在籍する中、教員・学生を会員とする東北大学国文学会が組織され、毎年秋に研究発表大会を開催し、年度末には機関誌『日本文芸論叢』を発行するなど、旺盛な活動を継続している。また、本研究室には、国文学・国語学・日本思想史学の三つの専門分野の会員から成る学際的学会である日本文芸研究会の事務局が置かれ、活動の要としての役割を果たすとともに、この下部組織である上代・平安・中世・近世・近代の各小研究会は、本研究室の多くの学生が主体的に参加し運営しており、機関誌『文芸研究』（年 2 回発行）にも、本研究室の教員・学生が次々と論文を掲載している。さらに、本研究室には、助手・大学院生による自主的な研究団体として東北大学文芸談話会が組織され、毎年数回の研究発表会を開き、年刊の機関誌『日本文芸論稿』も発行している。

### I 組織

#### 1 教員数（2009 年 9 月末現在）

教授：1

准教授：1

講師：0

助教：1

教授：佐藤伸宏

准教授：佐倉由泰

助教：三浦一朗

## 2 在学生数（2009年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
45	0	12	13	0

## 3 修了生・卒業生数（2005～2009年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
05	14	5	2
06	11	7	1
07	16	1	3
08	18	6	2
09	0	0	0
計	59	19	8

\* 2009年度は、9月末までの数字

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2005～2009年度）

### 1 博士学位授与

#### 1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件 数	論文博士授与件 数	計
05	1	1	2
06	1	1	2
07	0	1	1
08	2	2	4
09	0	0	0
計	4	5	9

\* 2009年度は、9月末までの数字

## 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

佐々木民夫、2005年度、『万葉集歌のことばの研究』

審査委員：教授・仁平道明(主査)、教授・佐藤伸宏、教授・佐藤弘夫

森沢真直、2005年度、『新古今時代和歌の研究』

審査委員：教授・仁平道明(主査)、教授・佐藤伸宏、教授・佐藤弘夫、  
助教授・佐倉由泰

森岡卓司、2006年度、『谷崎潤一郎研究』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・仁平道明、助教授・佐倉由泰、  
助教授・片岡龍

佐藤伸宏、2006年度、『日本近代象徴詩の研究』

審査委員：教授・仁平道明(主査)、教授・佐藤弘夫、助教授・佐倉由泰  
渡辺善雄、2007年度、『鷗外 闘う啓蒙家』

審査委員：教授・仁平道明(主査)、教授・佐藤伸宏、教授・佐藤弘夫

高橋秀太郎、2008年度、『太宰治の研究』

審査委員：教授・仁平道明(主査)、教授・佐藤伸宏、教授・佐藤弘夫、  
准教授・佐倉由泰

押野武志、2008年度、『日本近代文学の帰趨—夏目漱石・宮沢賢治・坂口  
安吾の系譜』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・仁平道明、教授・佐藤弘夫  
仁平政人、2008年度、『川端康成の研究』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・仁平道明、准教授・佐倉由泰、  
准教授・片岡龍

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
05	7	6	3	0	16
06	7	4	5	0	16
07	5	4	1	0	10
08	4	4	0	0	8
09	0	4	2	0	6
計	23	22	11	0	56

\*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

## 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
05	0	8	24	0	32
06	0	5	8	0	13
07	0	6	17	0	23
08	0	6	13	0	19
09	0	5	4	0	9
計	0	30	66	0	96

\* 2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

## 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

### (1) 論文

高橋秀太郎 「『龍宮』—いまの〈欲情〉といまへの欲情—」, 原善編『現代女性作家読本① 川上弘美』, 鼎書房, 2005年11月.

高橋秀太郎 昭和十五年前後の太宰治—その〈ロマンチズム〉の構造—, 『国語と国文学』第83巻第6号, 2006年6月.

高橋秀太郎 「『裏ヴァージョン』—畸形と変形への欲望—」, 清水良典編『現代女性作家読本⑤ 松浦理英子』, 鼎書房, 2006年6月.

高橋秀太郎 「『交換日記』—走れ柳美里!—」, 川村湊編『現代女性作家読本⑧ 柳美里』, 鼎書房, 2007年2月.

野口哲也 「「白鬼女物語」から「高野聖」へ—森田思軒訳「金驢譚」の受容と方法—」, 日本近代文学会『日本近代文学』第73集, 2005年10月.

野口哲也 「『おめでとう』—ミレニアムの〈わたしたち〉—」, 原善編『現代女性作家読本① 川上弘美』, 鼎書房, 2005年11月.

野口哲也 「「鏡」としての物語—「眉かくしの霊」論—」, 泉鏡花研究会編『論集泉鏡花 第四集』, 和泉書院, 2006年1月.

野口哲也 「『片付けない作家と西の天狗』—「書く」ためのストイシズム—」, 清水良典編『現代女性作家読本④ 笙野頼子』, 鼎書房, 2006年2月.

野口哲也 「「裸足の拝観者」—穴に踊る、まなざしの身体—」, 高根沢紀子編『現代女性作家読本⑦ 多和田葉子』, 鼎書房, 2006年10月.

野口哲也 「『4U』—女王様の「私小説」—」, 原善編『現代女性作家

- 読本⑨山田詠美』，鼎書房，2007年3月。
- 野口哲也 「泉鏡花における語りと変身」，日本比較文学会『比較文学』第50巻，2008年3月。
- 久保堅一 「弘徽殿大後の孤独」，古代中世文学論考刊行会編『古代中世文学論考』第16集，新典社，2005年11月。
- 久保堅一 「『竹取物語』と伝説」，中古文学会『中古文学』第77号，2006年6月。
- 久保堅一 「浮舟の物語と伝説」，日本文学協会『日本文学』第57巻第6号，2008年6月。
- 鈴木早苗 「「教へ」いそぐ光源氏」，古代中世文学論考刊行会編『古代中世文学論考』第14集，新典社，2005年5月。
- 鈴木早苗 「『源氏物語』と反復する二人妻説話—若菜上・下をめぐる—」，日本文芸研究会『文芸研究』第162集，2006年9月。
- 鈴木早苗 「『源氏物語』明石の姫君立后と『史記』「呂不韋列伝」」，日本文芸研究会『文芸研究』第167集，2009年3月。
- 鈴木早苗 「「たぐひな」き藤壺と紫の上—『源氏物語』紫のゆかり—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第33号，2009年12月。
- 高橋由貴 「「監禁」状態の（open）／close—大江健三郎「偽証の時」における〈公然の秘密〉—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第29号，2005年3月。
- 高橋由貴 「（排）出口なし—大江健三郎「報復する青年」論—」，東北大学文学会『文化』第70巻第1・2号，2006年9月。
- 高橋由貴 「遺された言葉」，岡部健・竹之内裕文編『どう生き どう死ぬか—現場から考える死生学』，弓箴書院，2009年5月。
- 寺窪健志 「大伴家持における「蘭亭集」の受容」，解釈学会『解釈』第51巻第3・4号，2005年4月。
- 寺窪健志 「大伴家持「初秋風涼しき夕」考—詩語の受容と歌ことばの創造—」，日本文芸研究会『文芸研究』第160集，2005年9月。
- 寺窪健志 「大伴家持『萬葉集』四二九二番歌試論—「うらうらに照れる春日」と「春日遅々」—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第30号，2006年3月。
- 寺窪健志 「『萬葉集』の「怨」と「恨」—「うらむ」と「うらめし」—」，

- 解釈学会『解釈』第53巻第3・4号，2007年4月．
- 寺窪健志 「家持の「恨歌二首」—越中の風土と霍公鳥—」，『高岡市万葉歴史館紀要』第19集，2009年3月．
- 仁平政人 「初発期川端康成における「表現」理念—ベネデット・クロウチェの受容を視座に一」，日本比較文学会『比較文学』第47巻，2005年3月．
- 仁平政人 「川端康成「春景色」論—「写実」とその解体—」，川端文学研究会編『川端文学への視界』第20号，2005年6月．
- 仁平政人 「川端康成「抒情歌」の方法 —「夢」の破れ目—」，日本文芸研究会『文芸研究』第161集，2006年3月．
- 仁平政人 「肥満体恐怖症—〈母〉の変形—」，清水良典編『現代女性作家読本⑤ 松浦理英子』，鼎書房，2006年6月．
- 仁平政人 「横断する〈希望〉—横光利一「微笑」における〈戦中／戦後〉—」『横光利一研究』第5号，2007年3月．
- 仁平政人 「『首都圏』—かすむ都市・ゆらめく意識—」，与那覇恵子編『現代女性作家読本⑩ 中沢けい』，鼎書房，2007年4月．
- 仁平政人 「「反橋」連作論—川端康成の〈戦後〉へ—」，川端文学研究会編『川端文学への視界』第22号，2007年6月．
- 仁平政人 「方法としての〈心理〉—川端康成における新心理主義をめぐって」，日本比較文学会『比較文学』第50巻，2008年3月．
- 仁平政人 「他者としての「過去」—戦後の川端康成における〈記憶—忘却〉の方法—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第32号，2008年10月．
- 仁平政人 「『猫道楽』—隠語の詩学、あるいは〈猫〉を飼わないと言う作法—」，『現代女性作家読本 長野まゆみ』，鼎書房，印刷中．
- 仁平政人 「川端康成「散りぬるを」論—「言葉」と「事件」—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第33号，2009年12月．
- 谷島潤一 「「筋」と「文体」—夏目漱石「幻影の楯」における「遠羅天釜」の受容—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第29号，2005年3月．
- 王 嘉臨 「志賀直哉「汜の犯罪」論—〈気分〉を視座として—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第30号，2006年3月．

- 王 嘉臨 「志賀直哉「剃刀」論—「自己」を視座として—」，東北大学文学会『文化』第 72 巻第 1・2 号，2008 年 9 月．
- 楊 淑容 「芥川龍之介「お富の貞操」論—共有した時間の記憶—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第 30 号，2006 年 3 月．
- 鈴木真弓 「「言ひてしものを」の行方—『萬葉集』巻四・六五七番歌小考—」，解釈学会『解釈』第 52 巻第 3・4 号，2006 年 4 月．
- 飯田真弓 「「天皇」への恋歌—『萬葉集』巻第四・七二五・七二六番歌考—」，日本文芸研究会『文芸研究』第 164 集，2007 年 9 月．
- 江 明瑾 「〈再現〉のフィクション—『右大臣実朝』論—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第 32 号，2008 年 10 月．
- 韓 吉子 「樋口一葉「雪の日」論—心の底の何者かをめぐって—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第 31 号，2007 年 3 月．
- 韓 吉子 「樋口一葉「やみ夜」論—お蘭の「女夜叉の本性」に着目して—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第 32 号，2008 年 10 月．
- 大木葉子 「「土神ときつね」論—賢治童話における語りをめぐって—」，日本文芸研究会『文芸研究』第 163 集，2007 年 3 月．

## (2) 口頭発表

- 高橋秀太郎 「太宰治とチェーホフ」，日本比較文学会第 69 回全国大会ワークショップ「チェーホフの短編小説はどう読まれてきたか」，北海道大学，2007 年 6 月 16 日．
- 野口哲也 「泉鏡花における変身への視線—アプレイウス「黄金のろば」との対比から—」，日本比較文学会第 69 回全国大会，北海道大学，2007 年 6 月 16 日．
- 河合隆司 「芥川龍之介「神々の微笑」試論—メレシユコフスキー『神々の死』と「南蛮屏風」から—」，全国大学国語国文学会 五十周年記念大会 二〇〇五夏，日本女子大学，2005 年 6 月 4 日．
- 久保堅一 「浮舟と伝説」，日本文学協会第 26 回研究発表大会，東北大学，2006 年 7 月 16 日．
- 鈴木早苗 「『源氏物語』と二人妻説話—紫の上をめぐって—」，日本文芸研究会第 58 回研究発表大会，東北工業大学，2006 年 6 月 25 日．
- 鈴木早苗 「『源氏物語』総角巻と『白氏文集』「婦人苦」—大君の死の

- 叙述をめぐって一」，全国国語国文学会冬季大会研究発表会，関西学院大学，2008年12月7日。
- 高橋由貴 「大江健三郎の初期小説とサルトル「汚れた手」—「死者の奢り」を中心に—」，日本比較文学会 2005 年度 東北・北海道大会，岩手大学，2005年9月10日。
- 高橋由貴 「大江健三郎『個人的な体験』論—締め出される〈子〉をめぐって—」，日本文芸研究会第59回研究発表大会，東北大学，2007年6月10日。
- 寺窪健志 「井の上の花—『萬葉集』四一四三番歌「かたかご」存疑—」，第37回 解釈学会全国大会，常葉学園大学，2005年8月23日。
- 仁平政人 「川端康成「抒情歌」の方法」，川端文学研究会第136回例会，武蔵野大学，2005年4月30日。
- 仁平政人 「川端康成「散りぬるを」の位相」，日本近代文学会東北支部第28回研究発表大会，弘前大学，2005年12月24日。
- 仁平政人 「「反橋」連作論—川端康成の〈戦後〉へ—」，日本文学協会第26回研究発表大会，東北大学，2006年7月16日。
- 仁平政人 「方法としての〈心理〉—川端康成における「新心理主義」をめぐって—」，日本比較文学会第69回全国大会，北海道大学，2007年6月16日。
- 仁平政人 「川端康成『山の音』の方法」，2008 年度 日本近代文学会秋季大会，東北大学，2008年10月25日。
- 仁平政人 「モダニズムと〈翻訳〉のエクルチュール—横光利一／生田長江の交差をめぐって—」，日本比較文学会東北支部第7回比較文学研究会，仙台市青年文化センター，2009年8月8日。
- 谷島潤一 「言語のざわめき—夏目漱石「カーライル博物館」の方法—」，日本比較文学会 東北・北海道支部 第3回比較文学研究会，東北大学，2005年12月3日。
- 楊 淑容 「芥川龍之介における怪異譚への志向」，日本文芸研究会 平成17年度第1回研究発表会，東北大学，2005年10月1日。
- 飯田真弓 「『萬葉集』「大伴坂上郎女月歌三首」考—「待つ」の諸相—」，日本文芸研究会第60回研究発表大会，東北大学，2008年6月15日。
- 王 嘉臨 「志賀直哉「大津順吉」論」，日本文芸研究会第60回研究発表



- 大会，東北大学，2008年6月15日。
- 江 明瑾 「〈歴史〉と〈文学〉との交渉—太宰治「鉄面皮」論」，日本近代文学会東北支部，仙台市片平市民センター，2008年6月21日。
- 韓 吉子 「樋口一葉「うつせみ」論—未定稿「うつせみ」を起点として—」，日本文芸研究会第61回研究発表大会，東北大学，2009年6月14日。
- 韓 吉子 「樋口一葉「うつせみ」論—未定稿を起点として—」，韓国日本学会2009傘下学会聯合学術大会，漢陽女子大学，2009年9月19日。
- 大木葉子 「「土神ときつね」における語りの問題—新美南吉「ごん狐」との比較を通して—」，日本文芸研究会第58回研究発表大会，東北工業大学，2006年6月24日。
- 大木葉子 「「既成の概念」への疑い—新美南吉「手袋を買ひに」論」，日本児童文学会第46回研究大会，仙台市戦災復興記念館，2007年10月20日。
- 岸本洋輔 「金刀比羅本『保元物語』論—その〈達成〉をめぐって—」，日本文芸研究会平成19年度第1回研究発表会，一関工業高等専門学校，2007年9月22日。
- 岸本洋輔 「軍記物語の諦念表現—三類本『保元物語』を中心に—」，日本文芸研究会第61回研究発表大会，東北大学，2009年6月14日。
- 岸本洋輔 「鎌倉本『保元物語』に関する考察」，軍記・語り物研究会例会，法政大学，2009年11月15日。
- 渡部 南 「『大鏡』「大臣列伝」の叙述の機構—評語「うるはし」に着目して—」，日本文芸研究会平成20年度第1回研究発表会，福島大学，2008年9月20日。

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

- 関澤美育 東北大学研究教育振興財団「海外留学奨励賞」，2009年7月22日。

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

## 5 留学・留学生受け入れ

### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

学部3年，ストックホルム大学・スウェーデン。

### 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
05	2	10	12
06	3	9	12
07	4	6	10
08	3	5	8
09	2	6	8
計	16	35	52

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
05	0	0	0
06	1	0	1
07	2	0	2
08	5	1	6
09	5	1	6
計	13	2	15

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

三浦一朗 東北大学 助教 2007年度  
高橋秀太郎 東北工業大学 専任講師 2008年度  
野口哲也 鳴門教育大学 専任講師 2008年度

### 7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員 19名  
出版社 2名

## 8 客員研究員等の受け入れ状況

### 客員研究員

インドネシア大学 バンバン ウィバワルタ 教授 2004年6月18日～9月17日 民主化プロセスにおける文学者の役割 [受入教員 佐藤伸宏教授]

大韓民国 漢陽女子大学 李 英敬 教授 2006年9月1日～2007年7月31日 日韓の旅の文化についての対比的研究 (日韓文化交流基金による研究) [受入教員 佐倉由泰准教授]

台湾 輔仁大学 黄 翠娥 助教授 2008年7月15日～9月10日 日本近現代文学における中国的素材の受容に関する研究 [受入教員 佐藤伸宏教授]

### 東北大学大学院文学研究科リサーチフェロー

北海道大学大学院 押野武志 准教授 2007年4月1日～2007年9月30日 日本近代文学の研究 [受入教員 佐藤伸宏教授]

大韓民国 漢陽女子大学 李 英敬 教授 2008年8月17日～2007年8月24日 中世紀行文芸の研究 [受入教員 佐倉由泰准教授]

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

上記の客員研究員等のほかは なし。

## 10 刊行物

『日本文芸論叢』 (東北大学国文学会・1982年3月より年刊を原則として刊行)

『日本文芸論稿』 (東北大学文芸談話会・1867年7月より年刊を原則として刊行)

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

### 2004年度

日本文芸研究会事務局

軍記・語り物研究会 2004年度大会 開催 (8月21・22日)

## 2005 年度

日本文芸研究会事務局

日本文芸研究会第 57 回総会・研究発表大会 開催事務局（6 月 11・12 日）

日本比較文学会東北・北海道支部第 3 回比較文学研究会 開催（12 月 3 日）

## 2006 年度

日本文芸研究会事務局

日本文学協会第 26 回研究発表大会 開催（7 月 16 日）

## 2007 年度

日本文芸研究会事務局

日本文芸研究会第 59 回総会・研究発表大会 開催事務局（6 月 9・10 日）

## 2008 年度

日本文芸研究会事務局

日本文芸研究会第 60 回総会・研究発表大会 開催事務局（6 月 14・15 日）

第 27 回 和漢比較文学会大会 開催（9 月 27・28 日）

2008 年度 日本近代文学会秋季大会 開催（10 月 25・26 日）

## 2009 年度

日本文芸研究会事務局

日本文芸研究会第 61 回総会・研究発表大会 開催事務局（6 月 9・10 日）

## 1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

### 2004 年度

東北大学国文学会平成 16 年度研究発表大会 2004 年 11 月 20 日

東北大学文芸談話会平成 16 年度第 1 回研究発表会 2005 年 2 月 23 日

東北大学文芸談話会平成 16 年度第 2 回研究発表会 2005 年 3 月 2 日

東北大学文芸談話会平成 16 年度第 3 回研究発表会 2005 年 3 月 9 日

東北大学文芸談話会平成 16 年度第 4 回研究発表会 2005 年 3 月 23 日

### 2005 年度

東北大学文芸談話会平成 17 年度第 1 回研究発表会 2005 年 8 月 10 日  
東北大学文芸談話会平成 17 年度第 2 回研究発表会 2005 年 8 月 24 日  
東北大学文芸談話会平成 17 年度第 3 回研究発表会 2005 年 8 月 31 日  
東北大学文芸談話会平成 17 年度第 4 回研究発表会 2005 年 9 月 7 日  
東北大学文芸談話会平成 17 年度第 5 回研究発表会 2005 年 9 月 14 日  
東北大学文芸談話会平成 17 年度第 6 回研究発表会 2005 年 9 月 21 日  
東北大学文芸談話会平成 17 年度第 7 回研究発表会 2005 年 10 月 13・  
20 日

東北大学国文学会平成 17 年度研究発表大会 2005 年 11 月 20 日  
東北大学文芸談話会平成 17 年度第 8 回研究発表会 2006 年 2 月 22 日  
東北大学文芸談話会平成 17 年度第 9 回研究発表会 2006 年 3 月 8 日  
東北大学文芸談話会平成 17 年度第 10 回研究発表会 2006 年 3 月 15 日  
東北大学文芸談話会平成 17 年度第 11 回研究発表会 2006 年 3 月 22 日  
東北大学文芸談話会平成 17 年度第 12 回研究発表会 2006 年 3 月 29 日

#### 2006 年度

東北大学文芸談話会平成 18 年度第 1 回研究発表会 2006 年 9 月 13 日  
東北大学文芸談話会平成 18 年度第 2 回研究発表会 2006 年 9 月 27 日  
東北大学文芸談話会平成 18 年度第 3 回研究発表会 2006 年 10 月 14 日  
東北大学国文学会平成 18 年度研究発表大会 2006 年 11 月 11 日  
東北大学文芸談話会平成 18 年度第 4 回研究発表会 2007 年 3 月 7 日

#### 2007 年度

東北大学文芸談話会平成 19 年度第 1 回研究発表会 2007 年 9 月 1 日  
東北大学文芸談話会平成 19 年度第 2 回研究発表会 2007 年 9 月 7 日  
東北大学国文学会平成 19 年度研究発表大会 2007 年 11 月 10 日  
東北大学文芸談話会平成 19 年度第 3 回研究発表会 2008 年 2 月 16 日  
東北大学文芸談話会平成 19 年度第 4 回研究発表会 2008 年 3 月 8 日  
東北大学文芸談話会平成 19 年度第 5 回研究発表会 2008 年 3 月 24 日  
東北大学文芸談話会平成 19 年度第 6 回研究発表会 2008 年 3 月 26 日

#### 2008 年度

東北大学文芸談話会平成 20 年度第 1 回研究発表会 2008 年 9 月 23 日  
東北大学国文学会平成 20 年度研究発表大会 2008 年 11 月 15 日  
東北大学文芸談話会平成 20 年度第 2 回研究発表会 2009 年 3 月 14 日

東北大学文芸談話会平成 20 年度第 3 回研究発表会 2009 年 3 月 17 日

東北大学文芸談話会平成 20 年度第 4 回研究発表会 2009 年 3 月 24 日

2009 年度

東北大学文芸談話会平成 21 年度第 1 回研究発表会 2008 年 4 月 11 日

東北大学国文学会平成 21 年度研究発表大会 2009 年 11 月 7 日

### 1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

国文学専攻分野では、作品の表現を丁寧に読み解くことを一貫して重んじ、偏りのない知識と読解力の習得を促しながら、学生ひとりひとりの関心を尊重して自己実現の手助けをすることを目標にして、毎年、多くの学生の教育に当たってきたが、過去 5 年間ににおいても、十分な実績・成果を挙げてきたと評価できる。全国的に就職状況が未だよいとは言えない状況にあっても、多くの前途有為な卒業生・修了生が希望の進路で活躍することがかなうような教育活動が実現できたと思う。多くの学生が本専攻分野で学ぶことを希望するが、そうした学生の意欲や関心に十分応えられる教育がなされていると考えていいだろう。毎年、70 名を超える学生が在籍し、2005 年度～2008 年度の 4 年間に、59 名（平均 14～15 名）が学部を卒業し、19 名（平均 4～5 名）が博士課程前期を修了し、博士課程後期の学生についても、ここ 5 年間で 7 名が修了もしくは満期退学した。中でも、ここ 5 年の間に、県立高校の教員を中心に、中学校・高等学校の教員として、19 名の卒業生・修了生・博士課程後期退学者が採用されていること（常勤講師・非常勤講師を加えればその数はさらに増える）は、教員になることが難関となっている昨今の状況を考え合わせるに、特筆すべき実績と言えよう。留学生に対しても、毎年 8～12 名（平均 10～11 名）の学生の教育に当たって、多大な成果を挙げており、国際社会への貢献度も少なくない。また、本専攻分野は、高度職業人の養成という社会的要請にも十分に役立てており、現在、博士前期課程 4 名・後期課程 1 名の社会人学生が在籍し、充実した修学・研究を重ねている。

本専攻分野の組織としての研究活動も十分評価できるものと考えている。確かに、全国的な厳しい状況を反映して、大学・短期大学・工業高等専門学校の常勤の職に就くのがきわめて難しい現状にあるが、そうした中でも、今年になって、改善の兆しが見え始めている。しかも、研究活動自体は一向に衰えることはなく、きわめて活発に進められている。特に、大学院の学生の論文発表の

充実ぶりは顕著で、その全体の数はもとより、審査制学術誌に掲載されるケースも増加する傾向にある。大学院の学生の研究発表も質・量ともに年々その充実度を増している。日々の教育・研究の場において、テキストと正面から向き合い、細部をたいせつにして表現を丹念に読み解くことを一貫して重んじてきたことがこうした旺盛な研究活動を支えているものと理解される。

また、本専攻分野は、刊行物の刊行や研究会の開催等を活発に行うことはもとより、学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催にも進んでかわり、客員研究員・外国人研究者の受け入れにも積極的に対応しており、国内外の学術交流ネットワークの重要な要としての役割を担っている。そして、何よりも、博士学位の審査にも厳正に当たり、すぐれた実績・成果を示した研究者に正当に学位が授与されるよう真摯に努力を重ねている。

以上のように、国文学専攻分野の研究・教育活動は高く評価できるが、2006年度に実施された外部評価（評価者：今西祐一郎 九州大学大学院人文科学研究教授）も、その客観的な裏付け・根拠となる。当該外部評価においては、作品を正確に、「文芸」として味読・読解するという文学研究の基本が、研究・教育の場で着実に実践され、それが伝統として脈々と受け継がれていることをはじめ、本分野の教員・学生の研究に対し、①先見性・独創性、②実証性・堅実性、③継続性・持続性、④体系性、⑤学界・社会への影響・貢献、⑥学会活動への貢献のいずれについても、たいへん高い評価がなされている。

ただし、教育・研究には、これでよいと安心できるような到達点はない。学生が、進路のこと、修学のことなどで、とまどい悩むことも少なくない。よりよい教育・研究環境の創出とさらなる成果の充実を期して不断に工夫をこらし、努力を重ねる必要がある。教員全員が、学生ひとりひとりのよりよい自己実現のためにたゆまず努めることを強く心に念じている。

### Ⅲ 教員の研究活動（2005～2009年度）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

仁平道明 「創造の機構—『源氏物語』における物語の始発をめぐって」,  
『国文学』第50巻4号（特集「平安時代の文学とその臨界—今何をしようとしているか」, 学燈社, pp.80-87, 2005年4月.

仁平道明 「伝為藤筆惟規集断簡」, 『汲古』第48号, 汲古書院, pp.17-19,

2005年12月.

仁平道明 「色と季節の思想—万葉集」 「白の表現—『菅家文草』」 「雲の色をそめるもの—『枕草子』」 「自然の色と人の色—『源氏物語』」 「絵画の色と文芸の色—『更級日記』」 「波にうかぶ色—『平家物語』」 「恵みの色—『宇治拾遺物語』」 「抒情の色—与謝蕪村「北寿老仙をいたむ」」 「思いの色—樋口一葉『たけくらべ』」 「南蛮の色—北原白秋『邪宗門』」, 『国文学』第51巻2号(特集「色の文芸史」), 学燈社, pp.74-89, 2006年2月.

仁平道明 「旅路のはて—『伊勢物語』東下りと「みなかわたらひ」」, 『国文学 解釈と鑑賞』第70巻3号(特集「人はなぜ旅をするのか」), 至文堂, pp.46-55, 2006年3月.

仁平道明 「『丹後国風土記』逸文存疑—「奈具社」の話の後代的性格—」, 『解釈』(解釈学会)第52巻第3・4号, pp.55-61, 2006年4月.

仁平道明 「『源氏物語』の世界と歴史的時間—延喜准拠説との訣別」, 日向一雅編『源氏物語—重層する歴史の諸相』, 竹林舎, pp.9-31, 2006年4月.

仁平道明 「異空間への招待」, 『国文学 解釈と鑑賞』第70巻5号(特集「説話・物語の異空間」), 至文堂, pp.6-14, 2006年5月.

仁平道明 「「月のみやこ」—『竹取物語』の異空間」, 『国文学 解釈と鑑賞』第70巻5号(特集「説話・物語の異空間」), 至文堂, pp.47-55, 2006年5月.

仁平道明 「平安文学における史実と虚構」, 全国大学国語国文学会編『日本語日本文学の新たな視座』, おうふう, pp.206-213, 2006年6月.

仁平道明 「『土佐日記』前史—旅の日記の始発」, 『国文学』第51巻7号(特集「旅と日記」), 学燈社, pp.24-31, 2006年7月.

仁平道明 「よろしきことにだにかかるわかれの—桐壺巻と『史記』張丞相列伝—」, 日向一雅・仁平道明編『源氏物語の始発—桐壺巻論集』, 竹林舎, pp.405-424, 2006年11月.

仁平道明 「『惟規集』断簡「またしらて」」, 『汲古』第50号, 汲古書院, pp.36-38, 2006年12月.

仁平道明 「一平と「漱石先生」」, 『国文学』第52巻2号(特集「家族の肖像」), 学燈社, pp.114-112, 2007年2月.



- 仁平道明 「歌物語の始発と古代和歌—物語を生む和歌、物語が生む和歌」,  
『国文学 解釈と鑑賞』第 72 卷 3 号 (特集「和歌文学の成立と展開 古代和歌文学史」), 至文堂, pp.64-72, 2007 年 3 月.
- 仁平道明 「「やさしかつた、かなしかつた」—芥川龍之介の世界」, 『没後 80 年記念特別展 人間・芥川龍之介』, 仙台文学館, pp.66-67, 2007 年 3 月.
- 仁平道明 「男の枕草子、女の枕草子—「生意気女」が笑うとき」, 『国文学』第 52 卷 6 号 (特集「枕草子的人生設計」), 学燈社, pp.82-91, 2007 年 6 月.
- 仁平道明 「「一塊の土」試読—「情ない」「一家」への嘆き」, 『国文学 解釈と鑑賞』第 72 卷 9 号 (特集「芥川龍之介再発見」), 至文堂, pp.146-153, 2007 年 9 月.
- 仁平道明 「『夜の寢覚』末尾欠巻部再構成の試み—架蔵切・『古筆学大成』切・周辺資料から」, 永井和子編『源氏物語へ 源氏物語から 中古文学研究 24 の証言』, 笠間書院, pp.434-461, 2007 年 9 月.
- 仁平道明 「挽歌の恋歌—鎮魂儀礼・鎮魂表現としての〈恋〉」, 『国文学』第 52 卷 12 号 (特集「万葉の恋歌」), 学燈社, pp.50-58, 2007 年 11 月.
- 仁平道明 「やさしい偷盗たち—芥川龍之介における〈救済〉と〈ゆるし〉」, 『國文學』第 53 卷 3 号 (特集「やさしいかなしい芥川龍之介」), 学燈社, pp.45-55, 2008 年 2 月.
- 仁平道明 「宮廷文学としての和歌 —『古今和歌集』序と「楽」—」, 仁平道明編『王朝文学と東アジアの宮廷文学』, 竹林舎, pp.372-405, 2008 年 5 月.
- 仁平道明 「ロンドンの漱石、帰ってきた漱石—「渡航日記」・クレイグ・オックスフォード」, 『国文学』第 53 卷 9 号臨時号 (特集「漱石—ロンドン、中国などで何が起こったか」), 学燈社, pp.38-45, 2008 年 6 月.
- 仁平道明・河合隆司 「漱石の「貸した本」 (翻刻と解説)」, 『国文学』第 53 卷 9 号臨時号 (特集「漱石—ロンドン、中国などで何が起こったか」), 学燈社, pp. 161-167, 2008 年 6 月.
- 佐藤伸宏 「日本の〈世紀末〉文芸・序説 (上)」第 68 卷第 3・4 号, 東

- 北大学文学会, pp.1-18, 2005年3月.
- 佐藤伸宏 「〈ことなくひとのかたちのもの〉—詩篇「春と修羅」考」, 『宮沢賢治研究 Annual』第15号, 宮沢賢治学会, pp.139-151, 2005年3月.
- 佐藤伸宏 「晩翠の詩的想像力」, 仙台文学館選書『天地有情』, 仙台文学館, pp.199-202, 2005年3月.
- 佐藤伸宏 「『有明集』以後—蒲原有明に於ける詩の終焉」, 『日本現代詩歌研究』第7号, 日本現代詩歌文学館, pp.33-50, 2006年3月.
- 佐藤伸宏 「〈自由詩〉というアポリア」, 『東北大学文学研究科研究年報』第56号, 東北大学大学院文学研究科, pp.1-39, 2007年3月.
- 佐藤伸宏 「室生犀星『抒情小曲集』の位置」, 『詩界』第250号, 日本詩人クラブ, pp.114-124, 2007年3月.
- 佐藤伸宏 「『白き手の獵人』の世界—「恋の囀り」を読む」, 『再説 三木露風』, 三鷹市芸術文化振興財団, pp.8-14, 2007年11月.
- 佐藤伸宏 「詩のことばの魅力」, 『ことばの世界とその魅力』, 東北大学出版会, pp.91-116, 2008年4月.
- 佐藤伸宏 「〈口語詩〉成立の位相」, 『近代文学 資料と試論』第8号, 「近代文学資料と試論」の会, pp.1-11, 2008年7月.
- 佐倉由泰 「『将門記』を読む」, 『国語と国文学』第82巻第5号, 東京大学国語国文学会, pp.51-64, 2005年5月.
- 佐倉由泰 「無常観が切り拓くもの—『方丈記』、『平家物語』、『徒然草』に着目して—」, 『日本語日本文学』第30輯, 輔仁大学外語学院日本語文学系, pp.1-27, 2005年7月.
- 佐倉由泰 「中世日本の山と物語」, 『東北文化研究室紀要』第47集, 東北大学大学院文学研究科東北文化研究室, pp.49-66, 2006年3月.
- 佐倉由泰 「「きかいが島」のさまざまな見え方—『平家物語』の記述の偏向性と多元性」, 『国文学 解釈と鑑賞』第71巻5号, 至文堂, pp.95-104, 2006年5月.
- 佐倉由泰 「『大塔物語』試論」, 『中世文学』第52号, 中世文学会, pp.94-103, 2007年6月.
- 佐倉由泰 「〈初期軍記〉の記述を支えるもの—『将門記』の用語に着目して—」, 『軍記と語り物』第44号, 軍記・語り物研究会, pp.31-44, 2008年3月.

佐倉由泰 「中世軍記物語の表現の古態とは — 半井本『保元物語』の累加的記述に着目して—」, 『国語と国文学』第 85 卷第 11 号, 東京大学国語国文学会, pp.12-24, 2008 年 11 月.

佐倉由泰 「奥羽の豊かさを語るということ — 陸奥五十四郡言説を起点として—」, 『説話文学研究』第 44 号, 説話文学会, pp.120-129, 2009 年 7 月.

三浦一朗 「「女しき」ことと「姪なる」ことのあいだ—「蛇性の姪」論—」, 『日本文芸論稿』第 29 号, 東北大学文芸談話会, pp.1-13, 2005 年 3 月.

森岡卓司・高橋秀太郎・野口哲也・三浦一朗・佐藤晃 「大学・短期大学文学系科目におけるウェブを介した補習教育の実践報告—現状と問題点—」, 『山形短期大学紀要』第 38 集, 山形短期大学, pp.59-74, 2006 年 3 月.

森岡卓司・高橋秀太郎・野口哲也・三浦一朗 「大学・短期大学文学系科目におけるウェブを介した補習教育の実践報告（2）—授業外学習時間の確保と評価—」, 『山形短期大学教育研究』第 6 号, 山形短期大学, pp.57-69, 2006 年 11 月.

高橋秀太郎・野口哲也・三浦一朗 「日本語文章表現指導の実践報告と課題の検討」, 『宮城学院女子大学研究論文集』第 105 号, 宮城学院女子大学, pp.195-212, 2006 年 12 月.

三浦一朗 「「浅茅が宿」を読む—やつれ果てた宮木の霊の姿から—」, 『日本文学』第 57 卷 12 号（通巻 666 号）, 日本文学協会, pp.62-65, 2008 年 12 月

## 1-2 著書・編著

仁平道明『源氏物語の始発—桐壺卷論集』（日向一雅・仁平道明編著）（共編）, 竹林舎, 598p, 2006 年 11 月.

仁平道明『王朝文学と東アジアの宮廷文学』（編著）, 竹林舎, 581p, 2008 年 5 月.

佐藤伸宏『日本近代象徴詩の研究』（単著）, 翰林書房, 383p, 2005 年 10 月.

三浦一朗『江戸の詩歌と小説を知る本』（共著）, 笠間書院, 2006 年 3 月.

### 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

#### (1) 書評

仁平道明 「書評岡野弘彦著『恋の王朝絵巻 伊勢物語』」, 『産経新聞』,  
2008年5月18日.

佐藤伸宏 「山田吉郎『前田夕暮研究』」, 『文芸研究』第159集, 日本文芸研究会, pp.49-50, 2005年3月.

佐藤伸宏 「復本一郎『日野草城 俳句を変えた男』(角川書店)」, 『神奈川大学国際経営論集』第30号, 神奈川大学経営学部, pp.201-202,  
2005年11月.

佐藤伸宏 「今西幹一著『佐藤佐太郎短歌の研究』」, 『日本文学』第57卷5号, 日本文学協会, pp.86-88, 2008年5月.

佐倉由泰 「書評 鈴木彰著『平家物語の展開と中世社会』」, 『神奈川大学評論』第55号, 神奈川大学, pp.160-160, 2006年11月.

#### (2) 解説

佐藤伸宏 「東北大学附属図書館所蔵「晩翠文庫」について」, 『学者詩人の足跡 土井晩翠展』, 仙台文学館, pp.6-7, 2004年9月.

佐藤伸宏 「佐藤春夫『田園の憂鬱』を読む」, 『人文科学ハンドブック』,  
東北大学出版会, pp.96-99, 2005年3月.

佐藤伸宏 「高村光太郎における〈自由詩〉の成立」, 『高村光太郎・智恵子展』, 仙台文学館, pp.46-47, 2006年3月.

佐藤伸宏 「口語自由詩の成立をめぐる諸問題」, 『詩界通信』第37号,  
日本詩人クラブ, pp.1-2, 2007年11月.

佐倉由泰 「シンポジウム 十六・十七世紀の奥羽世界と武家の物語」, 『軍記と語り物』第41号, 軍記・語り物研究会, pp.1-2, 2005年3月.

佐倉由泰 「平成十六年国語国文学界の動向 中世 二〇〇四年発行の雑誌を通して問うこと、考えること」, 『文学・語学』第184号, 全国大学国語国文学会, pp.52-55, 2006年3月.

佐倉由泰 「東北文化公開シンポジウム 東北像再考：地域へのまなざし、地域からのまなざし—その概要とこれからの展望—」, 『東北文化研究室紀要』第48集, pp.35-39, 2007年3月.

佐倉由泰 「橘為仲と宮城野の萩」, 『民話』第 19 号, 山形短期大学民話研究センター, 巻頭頁, 2007 年 6 月.

佐倉由泰 「文学からみた将門記」, 川尻秋生編『将門記を読む』, 吉川弘文館, pp.26-51, 2009 年 3 月.

### (3) 辞典項目等

仁平道明 「紫式部日記」「更級日記」「大和物語」「源氏物語」「たまきはる」「弁内侍日記」「中務内侍日記」, 飛田良文他編『日本語学研究事典』, 明治書院, pp.681-682, 682-683, 685-686, 688-689, 697-697, 697-698, 698-698, 2007 年 1 月.

## 1-4 口頭発表

### (1) 国際学会・国際シンポジウム

仁平道明 「日本文芸における季節と自然—藤と紅葉を中心に—」, 単独, 招待講演, 興国管理学院応用日語系 2006 年日本研究学術検討会, 興国管理学院応用日語系, 興国管理学院/台湾台南市, 2006 年 12 月 15 日.

仁平道明 「芥川文芸における〈救済〉」, 単独, 招待講演, 2007 年台湾大学日本研究国際学術検討会, 台湾大学日本語文学系, 台湾大学/台湾高雄市, 2007 年 11 月 3 日.

仁平道明 「〈「藪の中」と O. ヘンリの「運命の道」〉再説」, 単独, 研究発表, 国際芥川龍之介学会, 国際芥川龍之介学会・興国管理学院応用日語系, 興国管理学院/台湾台南市, 2008 年 8 月 28 日.

仁平道明 「上代文芸における「老い」」, 単独, 招待研究発表, 輔仁大学日本語文学系国際シンポジウム「文化における老い」, 輔仁大学日本語文学系, 輔仁大学/台湾新莊市, 2008 年 11 月 1 日.

仁平道明 「女性の文学としての『源氏物語』—男主人公へのまなざし—」, 単独, 招待講演, 韓国日語日文学会 2008 年度冬期国際学術大会, 韓国日語日文学会, 明知大学校/大韓民国ソウル市, 2008 年 12 月 20 日.

佐藤伸宏 「異文化の異化と同化」, 単独, 日韓比較文学シンポジウム, 東京大学駒場 18 号館ホール/東京都, 2005 年 10 月 14 日.

佐倉由泰 「中世日本の山と物語」, 単独, 東北文化講演会国際シンポジウム「山と神—東アジアの視点から—」, 東北大学大学院文学研究科,

東北大学／仙台市，2005年11月19日．

## (2) 国内学会

仁平道明 「源氏物語の世界と歴史的時間」， 単独， 招待講演・パネリスト， 文部科学省学術フロンティア推進事業 明治大学古代学研究所シンポジウム「源氏物語—重層する歴史の諸相—」講演・パネリスト， 明治大学／東京都， 2005年7月2日．

仁平道明 「『伊勢物語』筒井筒章段の成立と話型」， 単独， 招待講演， 2005年度福島大学国語教育文化学会後期学会， 福島大学／福島市， 2005年12月3日．

仁平道明 「サホビメ物語の形成—記紀の原資料と中国史書—」， 単独， 口頭発表， 平成18年度全国大学国語国文学会〈五十周年記念大会 2006冬〉， 群馬県立女子大学／群馬県佐波郡玉村町， 2006年12月3日．

佐藤伸宏 「日本近代文学に於ける日露戦後」， 単独， 日本比較文学会第66回全国大会シンポジウム， 日本比較文学会， 東洋大学／東京都， 2004年6月27日．

佐藤伸宏 「〈自由詩〉というアポリア—有明から犀星へ—」， 単独， 日本文芸研究会平成18年度第2回研究発表会， 日本文芸研究会， 共立女子大学／東京都， 2006年12月2日．

佐藤伸宏 「口語自由詩の成立をめぐる諸問題」， 単独， 招待講演， 日本詩人クラブ例会， 日本詩人クラブ， 東京大学／東京都， 2008年9月8日．

佐藤伸宏 「萩原朔太郎「竹」に関する生成論的アプローチ」， 単独， 日本フランス語フランス文学会東北支部大会「テキスト生成論シンポジウム」， 日本フランス語フランス文学会東北支部， 東北大学／仙台市， 2008年12月1日．

佐藤伸宏 「翻訳された日本の近代詩」， 単独， 招待講演， 日本比較文学会2008年度北海道大会， 日本比較文学会， 北海道大学／北海道， 2009年3月28日．

佐藤伸宏 「外国語に訳された宮澤賢治」， 単独， 日本比較文学会第71回全国大会ワークショップ「外国に《愛》された日本文学」， 日本比較文学会， 大阪大学／大阪， 2009年6月20日．

佐倉由泰 「『大塔物語』試論」， 単独， 中世文学会平成18年度秋季大会，

中世文学会，信州大学／松本市，2006年10月15日。

佐倉由泰 「東北文化公開シンポジウム 東北像再考：地域へのまなざし、地域からのまなざし」の司会，単独，東北大学大学院文学研究科東北文化研究室，東北大学／仙台市，2006年10月28日。

佐倉由泰「〈初期軍記〉の用語—〈軍記〉以外の書との関連に着目して—」，単独，軍記・語り物研究会第374回例会（2007年夏・企画例会）共同討議「『初期軍記』研究の検証と展開—新たな「状況」と「変容」を探る—」，軍記・語り物研究会，法政大学／東京都，2007年7月22日。

佐倉由泰「奥羽の豊かさを語るということ—陸奥五十四郡言説を起点として—」，単独，説話文学会・仏教文学会（支部）九月合同例会 公開シンポジウム「〈日本〉像の再検討—〈東北〉を視座に」，説話文学会・仏教文学会（支部），弘前大学／弘前市，2008年9月6日。

佐倉由泰 「〈歴史〉を語らぬ歴史叙述—『平治物語』論—」，単独，日本文芸研究会平成20年度第2回研究発表会，日本文芸研究会，東洋大学／東京都，2008年11月29日。

三浦一朗「歴史との対話—「白峯」論—」，単独，日本文学協会第26回研究発表大会，日本文学協会，東北大学／仙台市，2006年7月16日。

## 2 教員の受賞歴（2005～2009年度）

2006年度

佐藤伸宏 第6回日本詩人クラブ詩界賞，日本詩人クラブより受賞，2006年4月8日

## IV 教員による競争的資金獲得（2005～2009年度）

### （1）科学研究費補助金

2003～2005年度 課題番号：15520122 基盤研究（C）研究代表者：佐藤伸宏「近代日本における〈座談会〉の成立過程についての動的・総合研究」 3,500,000円（3年間総額）

2008年度 課題番号：20520153 基盤研究（C）研究代表者：佐藤伸宏「脱ジャンル領域としての「小品」に関する動的・文化史的総合研究」 1,900,000円（1年間総額）

2008 年度 課題番号：20720054 若手研究 (B) 研究代表者：三浦一朗「読本を視座とした近世中期歴史意識の研究」 910,000 円 (1 年間総額)

2009 年度 課題番号：20520153 基盤研究 (C) 研究代表者：佐藤伸宏「脱ジャンル領域としての「小品」に関する動態的・文化史的総合研究」 900,000 円 (1 年間総額)

2009 年度 課題番号：21520176 基盤研究 (C) 研究代表者：佐倉由泰「古代から中世に至る真名表記テキストに関する表現と知の系脈についての研究」 1,040,000 円 (1 年間総額)

2009 年度 課題番号：20720054 若手研究 (B) 研究代表者：三浦一朗「読本を視座とした近世中期歴史意識の研究」 780,000 円 (1 年間総額)

## (2) その他

なし

## V 教員による社会貢献 (2005～2009 年度)

### (1) 政府・地方公共団体の委員等

佐藤伸宏 教授

大学入試センター新教育課程試験問題調査研究委員会委員 2003 年 4 月～2005 年 3 月

仙台文学館運営協議会委員 2004 年 4 月から、現在に至る。

仙台文学館運営協議会委員長 2008 年 4 月から、現在に至る。

佐倉由泰 准教授

国文学研究資料館国文学文献資料調査員 2003 年 4 月～2007 年 3 月、2008 年 4 月～現在に至る。

三浦一朗 助教

国文学研究資料館国文学文献資料調査員 2008 年 4 月～現在に至る。

### (2) 講座・講演等

佐藤伸宏 教授

晩翠忌記念対談「晩翠詩の光と影」(和合亮一との対談), 仙台文学館, 2005 年 10 月 15 日.

仙台文学館文学講座講師「高村光太郎の詩」, 仙台文学館, 2006 年 5



月 20 日.

第 4 期有備館講座「世界の言語」講師「詩の言葉の魅力」, 大崎市スコーレハウス, 2007 年 1 月 20 日.

日本詩人クラブ例会講演講師「口語自由詩の成立をめぐる諸問題」, 東京大学, 2007 年 9 月 8 日.

宮城県詩人会総会講演講師「超越への夢想—日本近代詩の一断面—」, 仙台文学館, 2007 年 11 月 11 日.

仙台文学館文学講座講師「「永日小品」のなかの〈ロンドン〉」, 仙台文学館, 2008 年 3 月 28 日.

佐倉由泰 准教授

高校生のための東北大学公開講座「人文社会科学の「知」を求め—人文社会科学入門」講師「古典文学を発見的に読むために」, 東北大学, 2004 年 8 月 4 日.

平成 16 年度 みやぎ県民大学 東北大学大学院文学研究科開放講座講師「鴨長明『方丈記』の魅力—『平家物語』、『徒然草』との比較を通して—」, 東北大学, 2004 年 8 月 28 日.

仙台明治青年大学学習会 講師「『平家物語』—平宗盛を中心に—」, 仙台市太白区文化センター, 2005 年 5 月 11 日.

山形県立寒河江高等学校メイフラワーカレッジ講座講師「古典文学を楽しく読むために」, 山形県立寒河江高等学校, 2005 年 9 月 14 日.

第 2 期有備館講座「東北の豊かさ」〔東北大学大学院文学研究科市民のための公開セミナー第 2 期〕講師「平安時代の二つの陸奥—軍記物語の中の陸奥と和歌文学の中の陸奥と—」, 岩出山町スコーレハウス, 2006 年 2 月 18 日.

新潟県立新潟高等学校進路講演会 講師「発見的に考えるということ」, 新潟県立新潟高等学校, 2006 年 7 月 7 日.

宮城県宮城野高等学校特別講座「学問の世界」 講師「文学の世界」, 宮城県宮城野高等学校特別講座, 2007 年 5 月 26 日.

東北大学文学部オープンキャンパス公開講座 講師「古典文学と新たに会うために」, 東北大学, 2007 年 7 月 31 日.

市民公開講座 東北大学文学サロン 講師「宮城野の萩と古典文学」, 東北大学, 2007 年 11 月 23 日.

第 6 期有備館講座「東北人の肖像」〔東北大学大学院文学研究科市民のための公開セミナー第 6 期〕講師「藤原清衡と文学」，大崎市スコーレハウス，2008 年 3 月 15 日。

平成 20 年度 みやぎ県民大学 東北大学大学院文学研究科開放講座「県民のための文学サロン」講師「『平治物語』と平治の乱一物語の虚構の謎を探る一」，東北大学，2008 年 8 月 30 日。

仙台文学館ゼミナール 2008 講師「『平家物語』を読む」，仙台文学館，2008 年 9 月 19 日・10 月 3 日・10 月 17 日・10 月 31 日・11 月 14 日。

科学研究費補助金基盤研究(C)研究代表者：千明守「平家物語の初期形態に関する多角的研究―屋代本を拠点として―」第四回共同研究会講師，「『平治物語』を考える―表現の古態なき「四部合戦状」として―」，國學院大學，2009 年 5 月 23 日。

仙台文学館ゼミナール 2009 講師「『平家物語』を読む」，仙台文学館，2009 年 9 月 5 日・9 月 19 日・9 月 26 日・10 月 24 日・10 月 31 日。

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2005～2009 年度）

佐藤伸宏 教授

日本文芸研究会 委員 1985 年 6 月から，現在に至る。

日本比較文学会 東北・北海道支部役員 1992 年 12 月から，現在に至る。

日本比較文学会 東北・北海道支部事務局長 2004 年 4 月～2006 年 3 月。

日本文芸研究会 岡崎義恵学術研究奨励賞選考委員 2004 年 6 月から現在に至る。

日本比較文学会 全国理事 2005 年 6 月から，現在に至る。

日本比較文学会 全国大会組織委員会委員長 2006 年 6 月～2007 年 6 月。

日本近代文学会 学会誌編集委員 2007 年 4 月～2009 年 3 月。

日本近代文学会 評議員 2008 年 4 月から，現在に至る。

日本比較文学会 東北支部支部長 2008 年 10 月から，現在に至る。

佐倉由泰 准教授

日本文芸研究会 委員 2003年6月から、現在に至る。

日本文学協会 委員 2003年12月～2007年11月

三浦一朗 助教

日本文芸研究会 委員 2006年6月から、現在に至る。

日本文学協会 委員 2009年4月から、現在に至る。

## Ⅶ 教員の教育活動（2009年度）

### （1）学内授業担当

#### 1 大学院授業担当

佐藤伸宏 教授

1学期 国文学研究演習 日本文芸の考究とその論述の方法

2学期 国文学研究演習 日本文芸の考究とその論述の方法

1学期 日本文芸形成論研究演習 宮沢賢治の研究

2学期 日本文芸形成論研究演習 宮沢賢治の研究

1学期 日本文芸形成論研究演習 日本近代文芸の諸相

2学期 日本文芸形成論研究演習 日本近代文芸の諸相

佐倉由泰 准教授

1学期 国文学研究演習 日本文芸の考究とその論述の方法

2学期 国文学研究演習 日本文芸の考究とその論述の方法

1学期 日本文芸形成論研究演習 十四世紀の文芸の表現形成

2学期 日本文芸形成論研究演習 十四世紀の文芸の表現形成

#### 2 学部授業担当

佐藤伸宏 教授

2学期 国文学概論 日本近代文芸の諸問題

1学期 国文学基礎講読 国木田独歩の小説を読む

1学期 国文学演習 宮沢賢治の研究

2学期 国文学演習 宮沢賢治の研究

佐倉由泰 准教授

1学期 国文学概論 日本古典文芸の世界

1学期 国文学各論 『今昔物語』の研究

2 学期 国文学各論 『今昔物語』の研究  
1 学期 国文学演習 十四世紀の文芸の研究  
2 学期 国文学演習 十四世紀の文芸の研究  
〔1 回担当〕 1 学期 人文社会総論 人文社会科学の世界

### 3 共通科目・全学科目授業担当

佐倉由泰 准教授

〔1 回担当〕 2 学期 大学生のための情報検索術

#### (2) 他大学への出講 (2005～2009 年度)

佐藤伸宏 教授

宮城学院女子大学学芸学部 2005 年度～2009 年度

佐倉由泰 准教授

宮城教育大学 2005 年度～2009 年度

台湾・輔仁大学大学院 2005 年度・2007 年度・2009 年度

宮城学院女子大学学芸学部 2008 年度～2009 年度

三浦一朗 助教

宮城学院女子大学学芸学部 2005 年度～2009 年度

尚綱学院大学 2008 年度～2009 年度